平成26年度予算について

経理部経理課

平成26年度予算及び事業計画は、去る3月27日の学園理事会及び評議員会において承認されましたので、その概要をお知らせします。

本学の平成25年度の収支見込みは、3病院を中心とした収支改善の努力により、前年度に引き続き帰属収支差額ベースで黒字となる見通しです。具体的には、帰属収入の約3.85％（帰属収支差額比率）の29億82百万円の黒字が見込まれています。

しかし、平成26年度予算における帰属収支差額は、前年度見込額より大幅に減少し、6億32百万円となる見込みです。この減少の主な要因としては、2年に1度の診療報酬改定が実質マイナス改定となったこと及び消費税の増税により大学負担額が増加すること等が大きく影響しています。さらに、40周年記念事業として教育医療棟の建設、教職員・学生寮（2棟目）の建設、附属看護専門学校三郷校の建設、大学病院本館耐震補強工事等の大型事業が継続進行中であり、資金面でも大変厳しくなることが予想されます。

よって、この予算を達成するためには、これまでにも増して収支を改善していく努力が必要となりますので、教職員の皆様におかれましては、一人一人が常にコスト意識を持ち、さらなる経費削減の検討・実施にご協力をいただきますようお願いいたします。

予算のポイント、事業計画概要及び消費収支予算・資金収支予算は次の通りです。

■ 予算のポイント

平成26年度予算は、教育・研究・診療の充実とそれを支える財政基盤の確立を基本とし、限りある財源を効率的に配分することを課題として、各分野にバランスのとれた予算配分となるよう配慮しました。

各会計単位の重点施策は次のとおりです。

1）医科大学関連

⑴医学部定員

文部科学省は、医師不足に対応するため医学部の定員増を認めることとなり、これを受け平成26年度も入学定員を120名（栃木県地域枠として）で計上しました。

この入学定員増は、国が都道府県における医療課題の解決を図るために策定した地域医療再生計画の一環により図られたものであり、この栃木県地域枠で本学に入学する学生は、栃木県から医師修学資金の貸与を受けることができ、また、卒業後は栃木県職員として県内の公的機関等で一定期間医療に従事することとなります。

⑵学務関係

医学部では、医学教育モデル・コア・カリキュラムを基本としたカリキュラム構成となっており、効果的な教育体制を構築するために関係経費を計上しました。主な経費としては、一般的な経費以外に早期体験実習、学生の海外研修、共通試験CBT・OSCEに係る事項や医師国家試験対策としてのビデオ学習の援助、短期集中合宿の開催などがあります。

⑶キャンパスの環境の整備

従来から教育環境の改善としてカリキュラムや講義・実習方法などのソフト面の改善とともに、講義・実習室や周辺環境などのハード面の改修に対し鋭意に取り組んでいます。平成26年度においては、学生に対する良質なアメニティの提供をより推進するため、実習棟実験換気改修工事、コンピューター教室システム導入・更新等の工事を盛り込むこととしました。学生数の増加に対応し、ICTを積極的に活用した教育に利用可能な環境およびCBTを始め様々な状況に対応可能な環境を整えるべく総額3億5百万円を計上しました。

⑷看護師対策

全国的な看護師不足が広がる中、本学においても看護師確保が困難な状況であり、深刻な問題となっています。平成26年度においても、これまで以上に全学を挙げて積極的に募集活動を行い、大学病院・越谷病院・日光医療センターの7対1看護体制の維持および患者サービスの維持・向上を図ることとしました。

⑸教職員・学生寮の環境の整備

二期工事の平成26年度支払分として17億23百万円を予算計上しました。

⑹附属看護専門学校三郷校の開設

全国的な看護師不足が広がる中、各病院の7対1看護体制を維持するために、看護師の確保を目的として、平成27年に三郷市に附属看護専門学校を

開設することとしました。
平成27年4月の開校に向け準備を進めることとし、その建設費用として13億13百万円および機器備品・什器関係費用として2億50百万円、学内ネットワーク環境整備費1億円を予算計上しました。

⑺創立40周年記念事業
創立40周年記念事業として、「教育医療棟」建設(約69億円)の平成26年度支出分として教育医療棟の建設費用49億27百万円を予算計上しました。

2)大学病院関連
⑴診療報酬改定
平成26年度は2年に一度見直される診療報酬改定の年となります。
今回の診療報酬改定では、医師の技術料にあたる「本体部分」が0.1％の引き上げとなり、薬の公定価格である「薬価・材料価格」が市場実勢価格に基づき1.36％の引き下げとなりました。また、通常の改定とは別に4月の消費税率引き上げに伴う医療機関の課税仕入れコスト増への対応分として1.36％が上乗せにより、全体では0.1％のわずかなプラスとなりました。しかし、消費税増税に伴う対応分を除くと診療報酬改定率は全体で1.26％のマイナスとなり、平成20年度改定以来6年ぶりのマイナス改定となりました。
この決定を受けて平成26年度予算編成においては、この改定が当院にどの程度プラス（あるいはマイナス）に作用するかは具体的な診療報酬点数の設定を見ないと判断できませんが、DPCのミクロ分析（入院料・在院日数・手術料・薬剤・医療材料等々の分析）や当院診療内容の特徴を生かした増収対策を行い、平成25年度見込みから入院単価をプラス1.88％、外来単価をプラス3.06％とし、医療収入全体で約10億円の増収を見込みました。また、医療経費率においては消費税率引き上げの影響を最小限に抑えて、見込みに対して0.4％アップの43.9％とし、収入増と経費圧縮をより積極的に取り組む予算編成としました。

⑵診療体制の整備【教育医療棟関連】
（新MR検査室）
RI棟にある現MR検査室は、患者動線の悪さや機器の老朽化などの問題があり、それらの問題を解消し効率化を図るべく種々検討を行ってきましたが、平成27年3月に完成する教育医療棟の1階に新MR検査室として新設されることとなりました。MRI装置等の大型機器は、工事と同時に設置することが必要となるため、平成26年度予算に新MR検査室開設経費として総額13億10百万円を計上しました。
事業内容としては、新しい環境に耐えうることができる現有MRI装置（3.0T）1台をアップグレードして移設し、新たに最新のMRI装置4台（3.0T 2台・1.5T 2台）を導入すると同時に、ネットワーク機器およびMRI画像処理システム（syngo.via）2台を新設します。これにより先進医療を担う大学病院にふさわしい高精細MR画像を提供することができます。また、効率的な検査を行うことでかねてより懸案であった検査予約待ち日数の短縮化が図れます。
（ネットワーク機器整備）
教育医療棟工事完了前に必要となる、病院統合医療情報システム（電子カルテ等）のネットワーク設備の整備費用として74百万円を計上しました。

⑶栃木県ドクターヘリ事業
当院を基地病院として開始された栃木県ドクターヘリ事業は、平成22年1月の導入から4年目を迎え、順調に運航稼動しております。平成23年7月からは、救急医療体制の強化を目的とした広域連携協定が締結され、群馬・茨城両県とのドクターヘリの相互応援が開始されたことにより、さらに効率的な運航を可能としました。平成25年11月までの4年間の総出動回数は2,187回にものぼり、栃木県はもとより近隣県の救急医療に大いに寄与しています。
今後も引き続き効率的な運航を可能とするために、平成26年度予算ではドクターヘリ運航委託料1億94百万円、ヘリポート保守料2百万円およびヘリポート修繕費3百万円の必要経費を計上しました。
なお、国と県からのドクターヘリ運営費補助金2億12百万円も併せて計上しています。

⑷施設関係工事（本館耐震工事）
大学病院本館の耐震強化を図るための工事費用として、約7年かかる工事計画のうちの3年目の工事費用および耐震設計、監理費用として3億85百万円を計上しています。

3)越谷病院関連
⑴越谷病院経営基盤の強化
当院としては、埼玉県東部地域の基幹病院とし

て、より一層の診療体制の強化に努めます。また、平成26年度に実施される診療報酬改正に注視しつつ、現行の7対1看護体制の維持、平均在院日数の短縮、病床稼働率の維持を図り、積極的に医療収入および医療経費を見込み、経営基盤の強化を図ることとしました。

平成26年度の医療収入は、入院単価：69,500円（25年度見込比+4.4%）、外来単価：13,500円（同+5.0%）、また、入院患者数については年間病床稼働率89.6%（同+3.2%）の1日648名（同+23名）、外来患者数は1日1,639名（同+16名）としました。

なお、医療経費においては、後発医薬品への切り替え強化、医療材料の標準化を図り、物品調達の適正化や見直しにも引き続き力を注ぐこととし、平成26年度の医療経費率は25年度見込38.0%を0.5%圧縮する37.5%としました。

⑵医療機能充実のための隣地の取得

越谷病院における予てからの計画である隣地（郵政宿舎）取得のため、平成26年度に、「移転補償費」（9億10百万円）、「移転交渉業者委託費用」（15百万円）、「移転補償算定費」（14百万円）、「郵政宿舎南北分筆費用」（1百万円）を合わせて9億40百万円計上しました。

⑶放射線機器整備

高エネルギー放射線治療システム（ライナック）ならびにコンピューター断層撮影装置（CT）の老朽化に伴い、更新費用として計7億円〔（ライナック：5億円）、（CT：2億円）〕を計上しました。

⑷高エネルギー放射線治療システム整備に伴う施設工事

導入後13年経過している「高エネルギー放射線治療システム（ライナック）」の購入（H26年度予定）を目的に、ライナック棟新築工事費用として6億円を計上しました。

⑸オーダリングシステムの更新・拡充

医療事故防止対策の一環として、「患者認証システム」〔65百万円（5年間リース料総額）〕、産科婦人科外来の診療業務利便性を図る目的として、「産科婦人科システム」〔32百万円（5年間リース料総額）〕の2点を含む総額1億60百万円を計上しました。

4)日光医療センター関連

⑴地域社会の信頼に応える医療の推進と連携強化・良質な医療の提供地域社会の保健医療向上に貢献する基幹病院として、昨年にまして、県北西部の地域医療機関との連携強化を推進しながら、診療体制の維持・強化に努めます。

また、信頼される安全で良質な医療を引き続き提供し、チーム医療の推進等により急性期の医療機能の強化に取り組み、コストパフォーマンスの高い運営を維持するため、7対1看護体制を堅持しつつ、DPC制度に配慮した在院日数の短縮と病床稼働率の向上に努めます。

本年度は、診療報酬改定（平成26年4月）が実施されることから、患者動向等への影響は不透明ではありますが、平成26年度の患者数計画は、外来が年間平均で1日365名、入院が年間病棟稼働率88.0%の175名を目標としています。

⑵経営の効率化・合理化

病院経営の安定化、効率化、合理化を更に進め、引き続き経費の削減に努め、収支差額のバランスを図りますが、平成26年4月からの消費税率の引き上げ（5%→8%）及び円安による影響等を鑑みて、医療療収入に対する経費率は前年度予算27.3%(平成25年度見込み28.5%)を1.2%上回る28.5%を目標としています。

⑶医療機器の更新（医療設備費）

医療機器については、開院当初設置した機器が9年目を迎えることから、医療の質向上及び医療安全の推進並びに機器経年劣化、陳腐化等に対応するため、平成26年度は1億50百万円（平成25年度比50百万円増額）を計上しました。

⑷人工透析室の開設

当センターの糖尿病・内分泌内科に受診している糖尿病疾患患者数は平成25年11月末の時点で1,109人であり、うち、腎症分類基準第3期患者数224人、第4期患者数49人となっています。循環器内科、心臓・血管内科、その他に於ける慢性腎臓病合併患者数は急激に増加していること及び心臓・血管外科には維持透析患者のシャントトラブルや末梢動脈疾患に対する治療のための紹介患者も増加しています。その際の術後の透析管理を必要とする患者への対応面からも、今後、人工透析を必要とする患者が増加することから、人工透析室の開設費75百万円を計上しました。

5)看護専門学校関連

⑴国家試験対策

看護専門学校では、学生を看護師国家試験に合

格させることが重要であり、合格率により、受験生が当校を選択する指針となっていることから、全教員協力の下、国家試験対策に取り組んでいます。平成26年度予算では、前年度に引き続き、模擬試験の受験、夏期・冬期の講習及び教員セミナー等の実施経費を計上しています。

⑵教育機器の整備

看護専門学校では、臨床現場の最前線で働く「臨床看護実践力の高い看護師」の育成を目指しています。そのためには、学内演習を充実させ臨床実践能力の強化を図る必要がある為、前年度に引き続き、シミュレーションモデル（教育研究用機器備品）1百万円と実習用機器（用品費）に2百万円を計上しました。

⑶創立40周年記念事業

本校は、平成26年度に創立40周年を迎えます。

創立40周年記念事業として、記念式典を催すこととなり、2百万円を計上しました。

⑷教育研究用ソフトウェア

既存の成績管理システムのOSの変更に伴い、更新が必要となります。

なお、医学部・看護学部も同システムを導入していますが、現システムは不具合が多く、今般、同じ新システムを導入することとなり、10百万円を計上しました。

また、マークシートリーダーが経年劣化により、代替が必要であり、新規購入のため、1百万円を計上しました。

■ 事業計画概要

（単位：百万円）

事　業　名	事　業　内　容	26年度予算
(医科大学)		
1.教学関係		
【医学部】		
1) 全国共用試験	1) CBT：コンピューターによる医学知識試験の実施	4.6
	OSCE：「医療面接」「頭頸部」「胸部」等7つのステーションでの模擬患者を相手とする実技試験の実施（ともにH17年より実施）	1.9
2) 早期医学・地域医療体験	2) 期間集中型科目「コミュニティーヘルスインターンシップ」「アドバンスドコミュニティーヘルスインターンシップ」、選択科目「地域包括医療実習」の開設による本学附属病院や学外の福祉施設等での体験学習の実施	2.7
3) 学生の海外研修	3) 学内試験選抜の学生の海外大学病院等における約2週間の見学実習の実施（H13年より実施）	11.0
4) 医師国家試験対策合宿	4) 卒業試験･医師国家試験の合格に向けて、約1週間の短期集中合宿を実施（H12年より実施）	3.5
5) 国際交流等の拡充・充実	5) 国際交流の拡充や支援、海外大学との提携等の検討、海外視察の実施	5.0
6) がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン	6) 本学を含む国公私立8大学の共同申請による「国際協力型がん臨床指導者養成拠点」に参加	7.0
7) 国際交流推進	7) 海外の大学・教育研究機関等との交流及び国際協力事業の推進	8.0
8) 教務事務システム更新	8) 現システムでは、学生データ一元管理等の業務が対応困難なため、新システムを構築し業務効率を向上する	50.0
【看護学部】		
1) 領域別臨床看護学実習	1) 小児・母性・成人・老年・精神・地域の各領域における実習の実施	2.7
2) ふれあい看護学実習Ⅰ	2) 地域の健康な人々とのふれあいを通して、価値観や健康保持のための看護の役割等の学習	0.8
3) 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ	3) 病院において、患者の心理状態や良好な人間関係の構築等の学習及び入院患者の生活環境の理解や看護援助の必要性・重要性を体験学習	0.5
4) 地域看護学実習Ⅱ	4) 企業の健康管理、学校保健、産業保健活動の実際を環境調整・安全管理の視点から指導保健師と共に地域活動を実践	1.1
5) 国家試験対策	5) 国家試験対策コーナー等の環境整備、模擬試験・特別講義等の実施（H22年より実施）	3.5
6) 学生の海外研修	6) 海外の医療、看護業務の学習及び国際感覚を習得するため海外にて1週間程度の実習の実施	2.8
7) 専門看護師コース	7) 論文コースに加え、専門看護師コースの設置に伴う海外実習、学外施設実習の実施及び機器備品の購入	8.2
8) 成績管理システム更新	8) 新学生管理システムの導入（看護学部及び大学院看護学研究科）	22.0
2.施設・設備関係		
1) 教育医療棟建設 ＜創立40周年記念事業＞	1) 教育医療棟の建設（設計費74.1を含む）	4927.5
2) 教職員・学生寮建設	2) 教職員・学生寮の建設（設計費33.6、水道加入権8.6を含む）	1723.2
3) 附属看護専門学校三郷校建設	3) 附属看護専門学校三郷校新校舎の建設（設計費25.5を含む）	1312.8
4) 実習棟347実習室改修工事	4) 換気システム更新工事	200.0
5) 各大学棟用途変更による改修工事	5) 教室・研究室の改修工事	100.0
6) 教育研究・実習用機器備品	6) 教育研究・実習用機器備品の整備充実	441.7
7) 図書	7) 教育研究用図書の整備充実	40.7
3.管理運営関係		
1) 附属看護専門学校三郷校開設	1) 学内ネットワーク環境整備、校具･教具･図書の購入等	370.1

事　業　名	事　業　内　容	26年度予算
2) 広報関係事業	2) 学内だより発行、ホームページの充実及びマスコミ対応を含めた広報業務全般の充実	22.5
3) 看護師確保対策	3) 看護師不足に対応すべく全学を挙げた積極的な募集活動の強化、外国人看護師の採用	12.8
4) 障がい者雇用支援月間関連事業	4) 障がい者雇用に対する理解と啓発及び更なる雇用の推進を図るため、研修会の実施、特別支援学校への寄贈、対象校の拡大等	6.3
(大学病院)		
1.医療活動関係		
1) 統合医療情報システム	1) 電子カルテシステム、PACSシステムの維持管理	573.6
2) PETセンター	2) PET(陽電子放射断層撮影装置)によるガンの早期発見、詳細な部位の特定	399.3
3) 栃木県ドクターヘリ事業	3) ドクターヘリ運航業務の委託他	199.7
4) ガンマナイフ用コバルト60線源の交換	4) 経年劣化によるガンマナイフ用コバルト60線源の交換	141.3
2.施設・設備関係		
1) 本館耐震工事(3/6期)	1) 耐震補強工事(設計・監理費15.0を含む)	385.0
2) 新館1階血管造影室改修(手術室に変更)工事	2) 手術室増室および設備更新工事	150.0
3) 中央監視盤設置工事	3) 中央監視盤の設置工事	95.0
4) 用途変更による改修工事	4) 室内改修工事	80.0
5) 本館一次空調機更新工事	5) 空調機の更新工事	41.0
6) 医療設備機器整備	6) 大型医療設備、経年劣化による代替機器、最新医療機器の整備	350.0
7) 教育医療棟へのMR検査室の移転	7) 磁気共鳴断層撮影装置(MRI装置)・MRI画像処理システムの新設・アップグレード、MR検査室新設に伴うネットワーク機器等設置	1310.0
8) 放射線治療装置の更新	8) 放射線治療装置Infinity一式の代替購入	529.2
9) 臨床研修機器整備	9) 臨床研修用機器、OA機器の購入	50.0
(越谷病院)		
1.医療活動関係		
1) オーダリングシステム	1) オーダリングシステムの構築、各種システム更新	526.0
2) SPD業務委託拡充	2) 薬剤部における在庫管理、消費データ管理等の業務の拡充	33.6
3) 診療報酬改定対応	3) 診療報酬改定に対応した業務の効率化	13.0
2.施設・設備関係		
1) ライナック棟新築工事	1) ライナック棟の新築工事	600.0
2) 研究棟2階放射線集約工事	2) 越谷病院整備計画による放射線集約工事	450.0
3) 放射線部集約に伴う改修工事	3) 北棟・外来棟の改修工事	234.0
4) 研究棟ビルマルチエアコン更新	4) 経年劣化による更新工事	64.0
5) 空調機・換気機等更新	5) 経年劣化による更新工事	50.0
6) 医療設備機器整備	6) 大型医療設備、経年劣化による代替機器、最新医療機器の整備	200.0
7) 放射線機器整備	7) ライナック及びCT装置の更新	700.0
8) オーダリングシステム更新	8) オーダリングシステムのリース機器導入及び更新	160.1
9) 臨床研修機器整備	9) 臨床研修用機器、OA機器の購入	5.0
(日光医療センター)		
1.医療活動関係		
1) 業務外注化	1) 施設管理、検体検査、医事業務、給食、情報処理等の外部委託	270.8
2) 診療報酬改定システム変更	2) 医事システム及び電子カルテシステム他の変更作業	9.7
3) 医療情報システムの充実	3) 電子カルテシステム及び部門システムの充実	156.7
2.施設・設備関係		
1) 機械室熱源設備更新工事	1) 機械室熱源設備の更新	90.0
2) 2号館改修	2) 経年劣化によるトイレ改修工事他	20.0
3) エレベーター更新工事	3) 配膳用エレベーターの更新	15.0
4) 医療設備機器整備	4) 大型医療設備、経年劣化による代替機器、最新医療機器の整備	150.0
5) 透析室設備整備	5) 透析機器及び周辺設備の購入	75.0
6) 病院群輪番制病院設備整備補助事業	6) 血管内超音波画像診断装置の購入	22.1
7) ペーパーレス会議システム	7) タブレット端末導入による会議運用の効率化	9.0
(看護専門学校)		
1.教学関係		
1) 体験学習	1) 看護に必要な技術を習得するため、技術演習や小グループによる体験学習を実施	3.1
2) 領域別看護学実習	2) 各領域において3週間1クールとして病院や施設での実習を実施	2.0
3) 学生情報・成績管理システム	3) 学生情報・成績管理システムの導入	10.0
4) 専任教員の研修・研究	4) 看護教育内容、方法の改善や教員の質の向上を図るため、学外の研修会や研究会への参加	1.6
2.設備関係		
1) シミュレーションモデル整備	1) 教育研究・実習用機器備品の整備充実	1.4
2) 教育用ソフトウェア導入	2) マークシートリーダー導入	1.4
3.管理運営関係		
1) 創立40周年記念式典 ＜創立40周年記念事業＞	1) 創立40周年記念式典の開催	2.4

■ 消費収支予算の概要

2014（平成26）年度 消費収支予算書
（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

（単位：百万円）

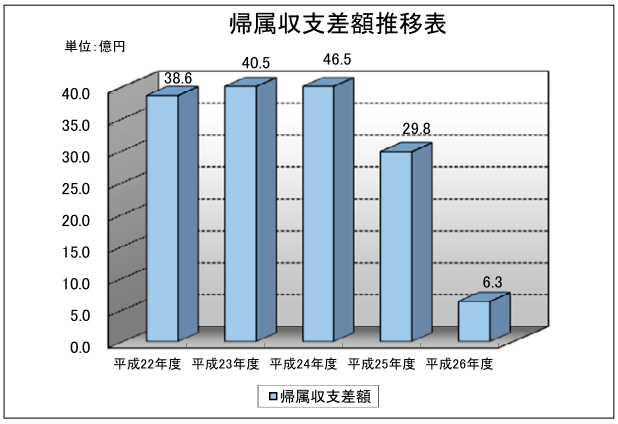
支出の部				収入の部			
科目	平成26年度予算額	平成25年度決算見込額	増減	科目	平成26年度予算額	平成25年度決算見込額	増減
人件費	32,018	30,747	1,271	学生生徒等納付金	5,226	5,196	30
教育研究経費	43,023	40,440	2,583	手数料	201	200	1
（医療経費）	(27,275)	(26,140)	(1,135)	寄付金	1,077	1,357	△ 280
（一般経費）	(10,609)	(9,365)	(1,244)	補助金	3,194	3,315	△ 121
（減価償却費）	(5,139)	(4,935)	(204)	（国庫補助金）	(2,569)	(2,625)	(△ 56)
管理経費	3,390	2,770	620	（地方公共団体補助金）	(623)	(688)	(△ 65)
（一般経費）	(3,062)	(2,428)	(634)	（その他補助金）	(2)	(2)	(0)
（減価償却費）	(328)	(342)	(△ 14)	資産運用収入	588	530	58
借入金等利息	13	18	△ 5	資産売却差額	1	4	△ 3
資産処分差額	376	74	302	事業収入	374	369	5
徴収不能引当金繰入額	98	109	△ 11	医療収入	69,040	66,193	2,847
徴収不能額	0	0	0	雑収入	109	191	△ 82
予備費	40	0	40	法人負担金収入	0	24	△ 24
法人負担金	220	239	△ 19	帰属収入合計（A）	79,810	77,379	2,431
				基本金組入額（△）	△ 13,768	△ 6,319	△ 7,449
消費支出の部合計（B）	79,178	74,397	4,781	消費収入の部合計	66,042	71,060	△ 5,018
当年度消費支出超過額	△ 13,136	△ 3,337	△ 9,799				
帰属収支差額（A-B）	632	2,982	△ 2,350				

［解説］ 消費収支計算は、当該会計年度の消費収入と消費支出の内容とその均衡の状態を明らかにするために行います。帰属収入（負債とならない収入）から基本金組入額（施設設備などの取得に充てる額）を控除して、消費支出に充てることができる消費収入（帰属収入－基本金組入額）を算出し、この消費収入と消費支出を対比して均衡の状態をみます。企業会計の損益計算書に似た性格のものです。具体的には、人件費、消耗品費、光熱水費、修繕費などの経常費用をどのような収入で賄っているかみるためのものです。

帰属収入は、前年度見込比3.1％、24億31百万円増となる798億10百万円を計上しました。この主な要因は、3病院の医療収入増によるものであり、各病院とも患者数、患者1人1日当たり単価、病床稼働率のアップ等、積極的な取り組みにより増収としました。

一方、消費支出は前年度見込比6.4％、47億81百万円増となる791億78百万円を計上しました。この主な要因は、人件費（定期昇給、看護師確保対策、附属看護専門学校三郷校開設準備等）及び医療収入増に伴う医療経費等の増加によるものです。

その結果、帰属収支差額は、前年度見込比△78.8％、23億50百万円減となる6億32百万円の収入超過（黒字）となります。帰属収支差額は前年度見込額より大幅に減少しましたが、この主な要因は、消費税増税による大学負担分の増加及び新規事業計画に伴う先行投資的な事業支出が大きく影響しています。なお、帰属収支差額比率は0.79％です。また、内部留保は64億75百万円となる見込みです。



1.消費収入

○学生生徒等納付金

医学部新入生120名、大学院医学研究科26名、看護学部新入生100名：3年次編入生5名、大学院看護学研究科新入生10名、助産学専攻科新入生10名を見込み授業料その他を算出し、前年度見込比0.6％、30百万円増の52億26百万円を計上しました。（うち附属看護専門学校分1億39百万円）

○寄付金

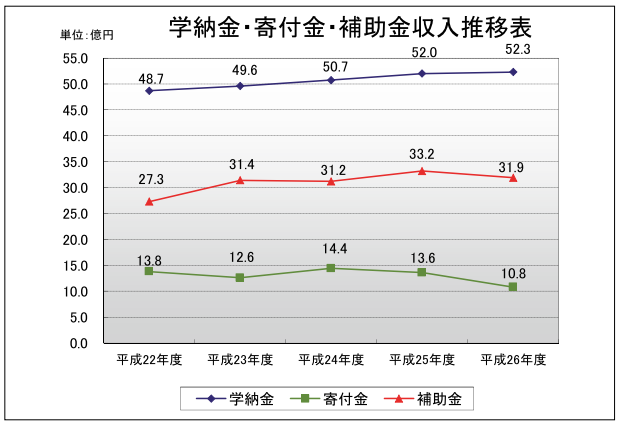
厳しい社会経済情勢を反映し今後とも増収は見込めない状況ですが、受配者指定寄付制度や免税措置（税額控除・所得控除）等の寄付者へのメ

リットをアピールし、積極的に寄付金獲得活動に取り組みます。

昨年度をもって創立40周年記念事業に係る寄付金募集が終了したことにより、総額で前年度見込比△20.6％、2億80百万円減の10億77百万円を計上しました。

○補助金

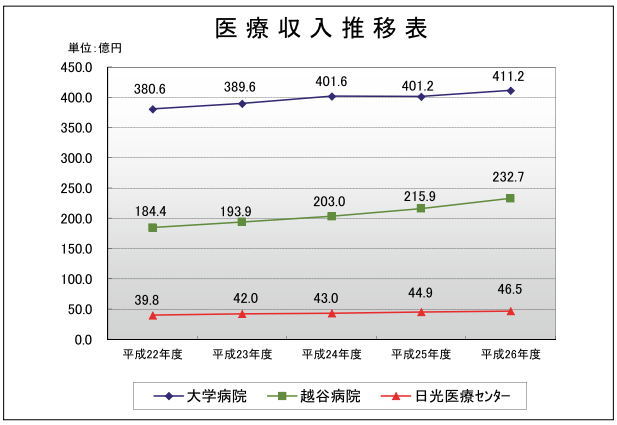
経常費補助金は、調整係数見直しや補助圧縮率等を考慮して、前年度見込比1.0％、22百万円増の21億41百万円を計上しました。また、その他主な補助金として、文部科学省施設設備関係補助金1億17百万円、大学病院のとちぎ子ども医療センター運営費補助金96百万円、総合周産期母子医療センター運営費等補助金1億円、ドクターヘリ運営費補助金2億12百万円、越谷病院の救命救急センター運営費補助金59百万円等を計上しました。総額で前年度見込比△3.7％、1億21百万円減の31億94百万円を計上しました。



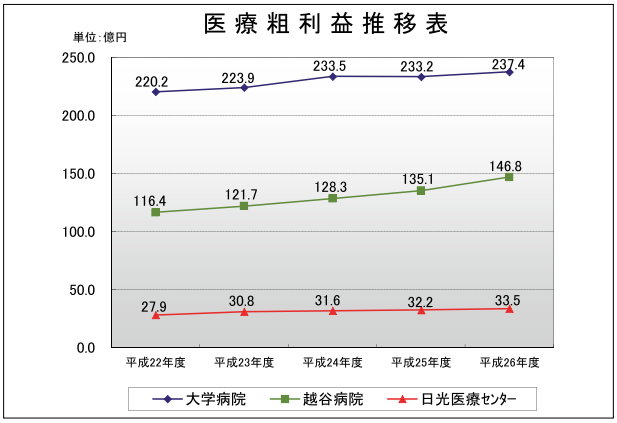
○医療収入

3病院（大学病院・越谷病院・日光医療センター）とも7対1看護体制を継続しつつ、DPCに配慮した在院日数と高水準な病床稼働率を維持することにより前年度を上回る予算を計上しました。また、入院収入・外来収入ともに患者1人1日当たり単価アップにより増収予算を計上しました。

入院収入：前年度比5.2％、22億38百万円増の451億75百万円
外来収入：前年度比2.5％、5億18百万円増の214億18百万円
室料差額：前年度比3.3％、62百万円増の19億63百万円
総　　額：前年度比4.3％、28億47百万円増の690億40百万円



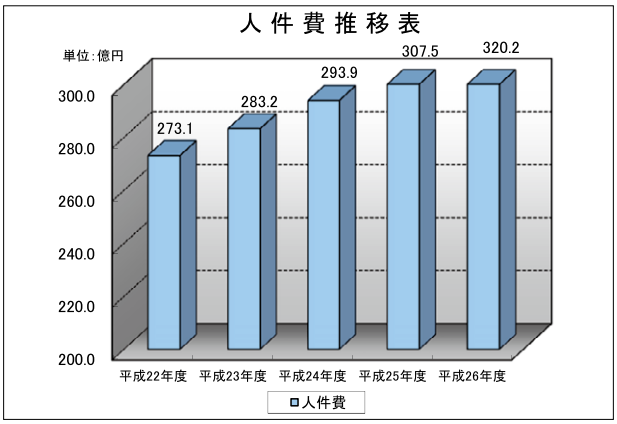
また、病院の医療活動から直接得られる利益である医療粗利益（医療収入－医療経費）については、3病院合計で前年度見込比4.3％、17億12百万円増の417億65百万円となりました。



2.消費支出

○人件費

教員人件費は、前年度見込比1.5％、1億24百万円増の83億85百万円、職員人件費は、前年度見込比4.8％、10億円増の218億20百万円、退職金は、前年度見込比△24.7％、3億26百万円減の9億92百万円、退職給与引当金繰入額は、前年度見込比8.7％、1億45百万円増の18億13百万円を計上しました。



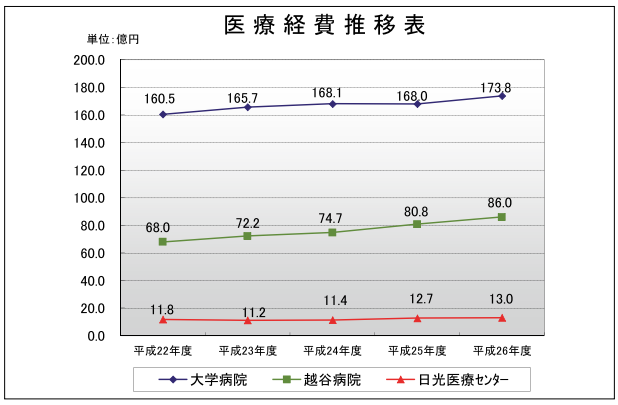
○教育研究経費

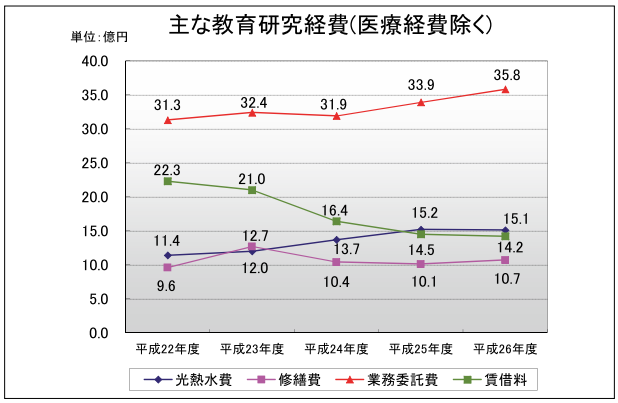
教育研究経費は、前年度見込比6.4％、25億83百万円増の430億23百万円を計上しました。

このうち医療経費は、総額で前年度見込比

4.3％、11億35百万円増の272億75百万円を計上しました。

大学病院では、前年度見込比3.5％、5億82百万円増の173億78百万円（医療経費率43.9％）、越谷病院では、前年度見込比6.4％、5億16百万円増の85億95百万円（医療経費率37.5％）、日光医療センターでは、前年度見込比2.9％、37百万円増の13億2百万円（医療経費率28.5％）を計上しました。





一般経費は、前年度見込比13.3％、12億44百万円増の106億9百万円を計上しました。この主な要因は、越谷病院隣地（郵政宿舎）取得に係る移転補償費用等を計上したことによるものです。

○管理経費

管理経費は、前年度見込比22.4％、6億20百万円増の33億90百万円を計上しました。この主な要因は、附属看護専門学校三郷校開設費用や旧看護師宿舎解体費を計上したことによります。

○法人負担金

法人負担金は、前年度見込比△7.9％、19百万円減の2億20百万円を計上しました。

○徴収不能引当金繰入額

徴収不能引当金繰入額は、前年度見込比△10.1％、11百万円減の98百万円を計上しました。

○借入金等利息

借入金等利息支出は、前年度見込比△27.8％、5百万円減の13百万円を計上しました。

■ 資金収支予算の概要

2014（平成26）年度 資金収支予算書
（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

（単位：百万円）

支出の部				収入の部			
科目	平成26年度予算額	平成25年度決算見込額	増減	科目	平成26年度予算額	平成25年度決算見込額	増減
人件費支出	31,194	30,396	798	学生生徒等納付金収入	5,226	5,196	30
教育研究経費支出	37,884	35,506	2,378	手数料収入	201	200	1
管理経費支出	3,062	2,428	634	寄付金収入	1,034	1,311	△ 277
借入金等利息支出	13	18	△ 5	補助金収入	3,194	3,315	△ 121
借入金等返済支出	512	612	△ 100	（国庫補助金収入）	(2,569)	(2,625)	(△ 56)
施設関係支出	10,750	5,594	5,156	（地方公共団体補助金収入）	(623)	(688)	(△ 65)
設備関係支出	4,687	3,072	1,615	（その他補助金収入）	(2)	(2)	(0)
資産運用支出	9,000	13,000	△ 4,000	資産運用収入	588	530	58
その他の支出	11,403	11,252	151	資産売却収入	4	8	△ 4
法人負担金	220	239	△ 19	事業収入	374	369	5
予備費	40	0	40	医療収入	69,040	66,193	2,847
資金支出調整勘定	△ 10,568	△ 10,739	171	雑収入	109	191	△ 82
				借入金等収入	3,000	0	3,000
				前受金収入	1,476	1,456	20
				その他の収入	25,853	22,264	3,589
				法人負担金収入	0	24	△ 24
				資金収入調整勘定	△ 14,181	△ 13,735	△ 446
次年度繰越支払資金	4,685	6,964	△ 2,279	前年度繰越支払資金	6,964	11,020	△ 4,056
支出の部合計	102,882	98,342	4,540	収入の部合計	102,882	98,342	4,540

［解説］ 資金収支計算は、当該会計年度の教育研究診療活動に対応するすべての収入・支出の内容並びに支払資金の収入・支出の顛末を明らかにするために行うものです。具体的には、組織の活動に伴ってどれだけお金が入ってきて、どれだけ出ていったか、その結果、お金がどれだけ残ったかを明らかにするものです。このため消費収支計算書に計上されていない「借入金等収入」「前受金収入」「借入金等返済支出」「施設関係支出」及び「資産運用支出」等が資金の収入・支出を伴うため計上されます。一方、消費収支計算書に計上されている「基本金組入額」「減価償却費」等は資金を伴わないため資金収支には含まれていません。

資金収支予算は平成26年度の収入及び支出に関わるすべての資金を計上しています。以下、消費収支予算と重複するものを除いて主な項目について説明します。

1.資金収入

○借入金等収入

安定した資金繰りを勘案して長期借入金30億円を計上しました。

○前受金収入

前受金収入は、前年度見込比1.4％、20百万円増の14億76百万円を計上しました。

○その他の収入

その他の収入は、減価償却引当特定資産からの繰入収入が30億円増加したこと等により、前年度見込比16.1％、35億89百万円増の258億53百万円を計上しました。

○前年度繰越支払資金

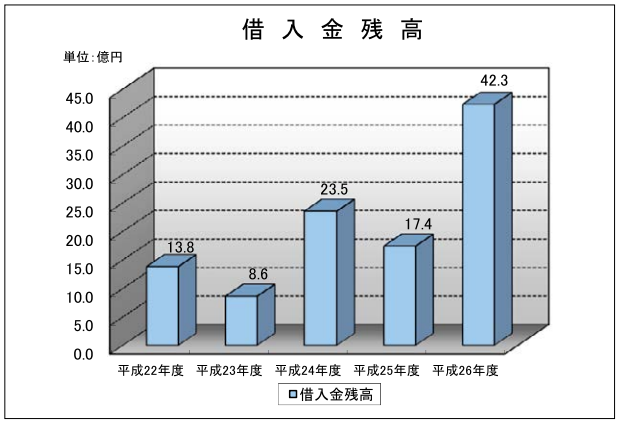
前年度繰越支払資金は、前年度見込比△36.8％、40億56百万円減となる69億64百万円計上しました。

2.資金支出

○借入金返済支出

借入金返済支出は、前年度見込比△16.3％、1億円減の5億12百万円（市中金融機関からの長期借入金の約定償還分）を計上しました。

なお、平成26年度末の借入金残高は42億28百万円となる見込みです。

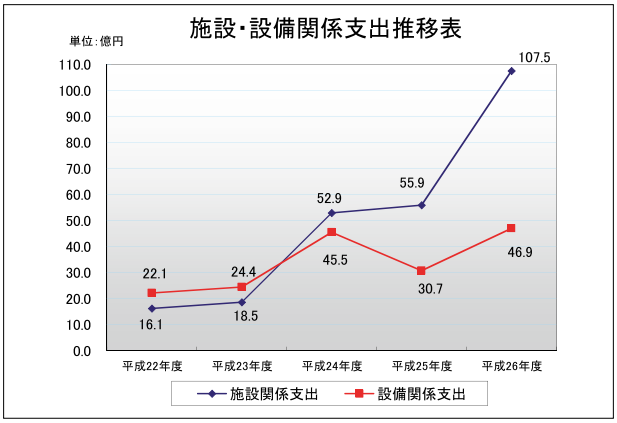


○施設関係支出

施設関係支出は、創立40周年記念事業として教育医療棟建設、教職員・学生寮建設（2棟目）、附属看護専門学校三郷校建設、大学病院本館耐震工事等の大型施設案件が継続進行中であり、前年度見込比92.2％、51億56百万円増の107億50百万円を計上しました。

○設備関係支出

設備関係支出は、前年度見込比52.6％、16億15百万円増の46億87百万円を計上しました。



○資産運用支出

資産運用支出は、現在進行中である教育医療棟建設等の大型施設案件の支払いに充当するため、毎年継続してきた特定資産の積立を実施せず、減価償却引当特定資産を40億円取り崩す計画とし、前年度見込比△30.8％、40億円減の90億円を計上しました。

○その他の支出・資金支出調整勘定

その他の支出は、114億3百万円、資金支出調整勘定は、105億68百万円を計上しました。

○次年度繰越支払資金

次年度繰越支払資金（年度末現預金）は、前年度見込比△32.7％、22億79百万円減の46億85百万円となる見込みです。

以上、平成26年度予算の概要を説明しました。

予算執行に当たっては、これまで以上に教職員一人一人が当事者意識を持って経費節減に取り組むとともに、実施する内容の必要性、緊急性を再度十分に検証していただくようお願いします。

なお、予算内容について、ご不明な点、ご質問等がありましたら、大学事務局経理課までご照会ください。